

本日! 「パククネ打倒!」

韓国で



ゼネスト!

本日12月16日、韓国・民主労総(組合員数80万人)が、「労働法制改悪阻止! 非正規職撤廃! パククネ政権打倒!」を掲げて、今年4回目の渾身のゼネラルストライキに立ち上がります! 日本の地から全力で連帯しましょう!

朝鮮半島一東アジアは革命情勢です。「戦争と貧困」を強いる資本主義に対し、「生きさせろ!」の労働者民衆の反乱が始まっています。労働者の団結した力のみが社会を変えられます。日本でも闘う労働組合を甦らせよう!

【民主労総とは?】民主労総(全国民主労働組合総連盟)は1995年11月創立の韓国のナショナルセンター。軍事独裁政権の労働運動弾圧に抗議して、70年に焼身自殺したチョンテイル青年の精神を引き継ぎ、資本と闘うために労働者自身が組織する労組=民主労組を結成し死守する闘いを展開してきた。87年労働者大闘争は軍事独裁政権を倒し、民主労組運動は95年の民主労総結成に結実した。



韓国・第2次民衆総決起大会!(12月5日)

全国労組交流センター／全学連(斎藤郁真委員長)

●全国労働組合交流センター

03-3845-7461 centergo@nifty.com <http://www.k-center.org/blog2/kc/>

●全日本学生自治会総連合(全学連)

03-3651-4861 mail_cn001@zengakuren.jp <http://www.zengakuren.jp>

12・5第2次民衆総決起大会での ハンサンギョン委員長アピール！

※ハン委員長は、パク政権の指名手配攻撃の中、曹溪寺(チョゲサ)の中から闘争を指導していたが、12月10日に不当逮捕された。

私たちは今日、13万の声を暴力で罵倒する政権に、私たちの要求を明確に伝えるために、また集まりました。

★暴力的公権力に不服従の宣言を



同志たち！ 公安政局です。数百人が拘束、手配、逮捕、召喚されています。30年前、軍事独裁時代でもあったことが、白昼堂々とまかり通っています。

私はすでに第2次民衆総決起を平和的国民大行進として行う立場を明らかにしました。それでもパク政権は集会を許しませんでした。許可を受ける必要さえない集会・デモの自由を国家権力が統制しています。この国の民衆の平和は、国家権力の暴力を認める平和ではないことを明確にします。国家権力の暴力に対抗するすべての行為は、正当防衛であることを政権に警告します。今日から暴力的公権力にきっぱりと不服従を宣言しなければなりません。

覆面をするなというなら、仮面をかぶりましょう。脅迫をするなら嘲弄しましょう。時には花が武器にもなることを示しましょう。歴史の法律に違反する者は、まさにこの政権であることを一つひとつ確認させてやりましょう。

★独裁政権は闘争を止められない

11月14日、私たち民衆の闘争はあまりにも正当な闘争でした。私たちは銃刀で執権した軍事独裁に対抗して、民衆抗争を、そして労働者大闘争を勝利に導いた闘争の歴史を持っています。今日私たちがしばらくの間、弾圧を受けても、暴力的独裁政権が私たちの闘争を止めることは決してできません。

骨身にこたえる仕事をしても希望がない国、200万ウォンにもならない月給で生きていかなければならない940万労働者、こういう国がわが国であると言えますか？ 民衆を抑圧し、民主主義を踏みにじりながら、千年万年続く権力がどこにあるのですか？

資本の私腹だけ肥やす労働改悪を中断しろ！ 農業を売り飛ばす開発農政、反農業政策を廃棄しろ！ 青年たちに正規職、良い働き口対策をつくれ！ 親日と軍事独裁、その延長にある韓国現代史、不正な政治権力の歴史を美化するための韓国教科書国定化を中断しろ！ こういう私たちの要求が、殺人放水銃に生命をかけねばならないほどの誤った要求でしょうか？ 労働改悪を防ぐ強力なゼネスト闘争を成功させること以外に道はありません。

★より大きな民衆抗争へ共に闘う

政権の必死のあがきが強まるほど、夜明けが近くなると言います。帝王的権力を享受するこの政権に屈服しないでいきましょう。今日私がいる所が曹溪寺であれ、闘争の現場であれ、この時代が私に与えた責任と役割を果たす約束と決意を明らかにします。民衆がこの国の歴史をつくりました。堂々とした主人です。今日の第2次民衆総決起がより大きな民衆の抗争に継続できるように、民主労総はゼネスト闘争でともに闘います。闘争(トゥジェン)！



【写真上から1、2枚目】11・14民衆総決起大会に15万人が決起し、ソウル市中心部を実力占拠。警察の放水攻撃と大激突。【同3枚目】9・23第3波ゼネスト。【同4枚目】7・15第2波ゼネスト。【同5枚目】4・24第1波ゼネストに27万人が決起！ ソウル市庁舎前で集会。